

緑化だより

No.43 平成21年10月号



ニオイコベニタケ

○虹色きのこ
○植物と歴史
○花だより

○研修会・イベント報告
○研修会・イベント紹介
○お知らせ・ご案内

生き物いっぱい 自然いっぱい

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



虹色きのこ

(6) 藍色

七色の虹のようにきのこも美しい色合いのものがあります。

ヌメリアイタケ(滑藍茸)

表面は濃い藍色、初めなめし皮状の手触りですが、しだいに強いねばりを帯びてきます。乾くと青みを失いニス状の光沢をあらわします。傘の裏は白色で管孔状になっています。一種の癖と苦味があるので、茹でこぼして水にさらして食用にします。

アイコウタクタケ(藍膏薬茸)

膏薬のように樹皮にへばりついているように見えるのがこのきのこです。青紫色～深紫色で目立ちます。このような子実体は“背着生”と呼ばれています。その厚さは 0.5mm ほどです。食用にはできません。

コンイロイッポンシメジ(紺色一本占地)

表面は青黒色でしばしば放射状の浅いしわがあります。ひだは最初白色ですが後に肉色になります。柄も傘とほぼ同色です。食用にされていますが、類似種のナスコンイッポンシメジ(食毒不明)と間違えないようにしてください。

※写真は家の光協会出版の「きのこ図鑑」によるものです。



ヌメリアイタケ



アイコウタクタケ*1



コンイロイッポンシメジ

植物と歴史

『進化—裸子植物の繁栄(2)』

温暖な気候が続き、リン木や巨大トクサの森林が作られたこの時代は、世界各地から発見された植物化石には年輪がなく、世界中の化石が同じ構造であったことから、温暖多湿な気候であったことが伺えます。

大気中の酸素は、現在の地球の割合とほぼ等しくなり、湿地には両生類が繁栄し昆虫類も多くの種を爆発的に生み出しました。また、この時期に爬虫類が出現し繁栄を始めました。

三畳紀、周期的に寒く乾燥した天候が続くようになるとソテツ類、イチョウ類、マツ類、グネツム類などの裸子植物(Gymnospermae)が繁栄しました。これらは、受精に水を必要としない風媒花で、種子植物では胚芽がむき出しになっているものを言います。また、裸子植物は種子を作るようになった最初の植物です。

この時期一つの大陸であったパンゲア大陸は、ローラシアとゴンドワナに分裂し始め、大陸内部は砂漠化が進行して行ったようです。また、裸子植物の巨木の葉を食べるなど当初小さかった恐竜も大型化して行きました。

ジュラ紀はおおよそ温暖・湿潤で、大型の恐竜や昆虫が繁栄し、被子植物(Angiospermae、Magnoliophyta、Angiosperm)が出現しました。

花だより

シロダモ クスノキ科シロダモ属

夏から秋にかけて開花する植物などでは、花と実が同時に見られるものがあります。シロダモもその内の一つです。センター内では、8月号でご紹介したツルマンリョウやマルバノキ(ベニマンサク)、シリブカガシ、チャノキなどがあります。

シロダモは、暖地の山野で適潤～やや湿り気のある場所を好み、県内では南部の山地を中心に見られますが、常緑広葉樹の中では耐寒性のある樹木の一つであり、三段峡でも見られます。陰樹なので林縁や林内でもよく生育し、生長は早いです。



芽吹いた新葉



シロダモの花(雄花)



シロダモの果実



シロダモの葉裏

葉の3脈がよく目立ち、葉裏はロウ質に覆われ灰白色で、こするとロウ質がとれて緑色が出てきます。若葉は、黄褐色の絹毛に覆われて下垂するので、新緑時は容易に見つけることができます。絹毛は葉が展開するとともに脱落します。葉が古くなると葉裏はあまり白くないので、生育の悪い個体の葉はヤブニッケイと区別しにくいこともあります。果実は赤く熟し、昔は種子から油をしぼり燈油としたり、ロウソクなどに利用したりしたそうです。果実が黄熟するものはキミノシロダモ、矮性種はヒメシロダモ、葉が細いホソバシロダモなどの変種があります。

和名は、葉裏が白いことにより、ダモはタブが転訛したものです。別名シロタブ、ウラジロタブ、タデ、タモなどと言われています。庭園や公園などに植栽されることがありますが、移植は難しいです。



研修会実施状況

研修会・イベント報告

9月18日(金) 『アロマセラピーでリフレッシュ』

こちらの不手際で1日ずれての開催となりましたが、今回初めて開催する研修会でした。アロマセラピーとは、アロマ(芳香)、セラピー(療法)で植物が生み出す芳香成分(精油)を利用して、ココロとカラダを健康にする自然療法になります。

まずは、香りの良いハーブティを口にしながら自己紹介を行い、お互いの緊張をほぐした後、アロマオイル作りを行いました。キャリアオイル(精油の有効成分を皮膚に浸透しやすくするオイル)に精油を混ぜ、各人でオリジナルのアロマオイルを作成した後、ハーブを入れた湯で手浴を行い、ペアどうしてハンドトリートメントを行いました。夫婦、友人、親子と皆楽しくマッサージを体験されました。

最後にアロマセラピーの利用方法として、芳香浴・アロマバス・マッサージ・スキンケア・ルームコロン・蒸気浴などの説明があり、研修は終了しました。機会があれば、皆さんも実際に自分でやって、色々な香りを体感されてみてはいかがでしょうか。

研修会・イベント紹介

○10月1日(木) 『森林浴～元気になったと思うはきのせいかな』 10:00～12:00 学習室

講師:広島大学薬学部准教授 神田 博史 先生

毎年恒例、神田先生の座学研修会です。面白くてためになる植物の話をして頂きます。さて、今回はどのような話になるのでしょうか。

○10月9日(金) 『10月の自然探勝』 10:00～12:00 第3駐車場集合

講師:広島大学名誉教授 石橋 昇 先生

第3駐車場から北展望台～集いの広場～中央展望台の散策路を歩く予定です。

○10月12日(月) 『初心者のためのきのこ観察会』 10:00～12:00 管理事務所前

講師:きのこアドバイザー 川上 嘉章 先生

きのこに興味があるけど、初心者でなかなか学習する機会がないという方などを対象に行います。もちろん、初心者の方以外でも参加できます。

○10月15日(木) 『野生きのこ料理教室』 10:00～12:00 学習室集合

要予約 先着 25名 材料費¥300 講師:料理研究家 金本 久子 先生

野生きのこを利用して、料理教室を行います。野生きのこの料理方法を学習してみましょ。

○10月18日(日) 『秋のきのこ教室』 10:00～12:00 第3駐車場集合

講師:きのこアドバイザー 川上 嘉章 先生

園内できのこを採集した後、きのこ鑑定会を行います。きのこについて学習してみませんか。

○10月22日(木) 『木の実ウォッチング』 10:00～12:00 管理事務所前集合

講師:植物研究家 清藤 徹 先生

○10月24日(土) 『庭木の手入れについて』 10:00～12:00 学習室集合

講師:樹木医 工藤 徹 先生

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

◎ 『きのこ祭り』開催

10月10日(土)～10月18日(日)は、『きのこ祭り』を開催します。期間中、レストハウスで食事をされた方にきのこ汁のサービス(毎日11:30～先着20～50名)や、きのこクイズを実施します。クイズには景品もあります。きのこの鑑定も受付けています。

◎ 展示会のお知らせ 展示場所:レストハウス

○ボタニカルアート展 ～10月4日(日)迄

○きのこ写真と本物のきのこ展 10月8日(木)～11月3日(火・祝)

様々なきのこ写真とともに実物きのこの展示を行います。

○木の枝を使った工作展 10月3日(土)～11月15日(日)

木の枝を使って作られた人形を展示します。躍動感のある人形達をご覧下さい。

◎ どんぐり工作教室 10月25日(日) 9:30～12:00 参加費 200円

どんぐりを使って、色々な物を作ってみませんか。植栽の方法なども学びます。

主催・問合せ先 愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 TEL 082-240-3420

◎ 小河原車庫前からの無料送迎

広島バス29番線のバス停:小河原車庫前までの無料送迎を10月1日(木)から行います。送迎時間は、バス停で9:30、13:30になり、予約が必要です。詳細は管理事務所までお問い合わせ下さい。